

馬毛島における自衛隊施設の整備について

～地元の声を受けた主な防衛省の対応～

令和5年1月に馬毛島において工事を開始しました。防衛省としては、工事に関する地元の声について、地元自治体と緊密に意思疎通を図りながら、適切に対応する考えです。主な防衛省の対応について、以下のとおりとりまとめました。

種子島の宿泊施設や賃貸物件の空き状況等への影響

- ◆ 種子島の宿泊施設等の空き状況等への影響を最小限にとどめるため、以下の取組を進めます
 - ・ 馬毛島に**3,000室を超える仮設宿舎を建設**
 - ・ 種子島の**仮設宿舎等の更なる利用等**
- ◆ 馬毛島の仮設宿舎の建設スケジュール
 - ・ **本年7月頃までに約340室の仮設宿舎**の建設を計画
- ◆ 工事関係者の人数（R5.4.1現在）
 - ・ 種子島に滞在する工事関係者は**約810名**
〔①宿泊施設約150名、②賃貸物件約280名、③仮設宿舎約200名、④自宅等約180名〕
 - ・ ピーク時は**種子島で約2,000名、馬毛島で約4,000名**（工事着手から約1年後）
 - ・ 工事関係者の推移の見通し

(単位：名)

	令和5年					令和6年
	4月 (実績)	6月 (見通し)	8月 (見通し)	10月 (見通し)	12月 (見通し)	2月 (見通し)
種子島	約 810	約 1,000	約 1,500	約 1,500	約 2,000	約 2,000
馬毛島	約 60	約 300	約 800	約 2,000	約 2,500	約 4,000
計	約 870	約 1,300	約 2,300	約 3,500	約 4,500	約 6,000

注：工事の進捗等により変動する場合があります

- ◆ レンタカー（R5.4.1現在）
 - ・ 工事受注者による種子島島内でのレンタカーは**約40台**
※観光客のニーズの高い乗用車タイプではなく、**業務用車両（ライトバン等）**が中心。
※このほか、島外の建設重機のリース会社等から約90台を借入

廃棄物の処理

- ◆ 廃棄物の減量のため、以下の取組を進めます
 - ・ 馬毛島内に、**生ごみ処理機、簡易焼却炉、浄化槽汚泥用の脱水装置及び乾燥処理装置を設置**
 - ・ 工事受注者に対し、ごみ排出量の削減やごみ分別のための責任者等の配置を指示
- ◆ 住民の方々のご懸念を踏まえ、工事受注者に対し、累次にわたり指示
 - ・ ごみ出しに際し、**地元のルールに従うこと、近隣住民の方々トラブルにならないようにすること**
 - ・ 自治会費等を支払った上でごみステーションを利用すること

工事の安全（交通安全を含む）、治安

- ◆ 住民の方々のご懸念を踏まえ、工事受注者に対し、累次にわたり指示
 - ・ 交通法規の遵守を含め、工事の安全に万全を期すこと
 - ・ 私生活においてもトラブル等が生じないようにすること
- ◆ 工事車両の通行ルート沿いの学校等の登下校時に**交通誘導員を配置**
- ◆ 工事関係者がかかわるトラブル等が生じた場合に迅速な対応がとれるよう**平素から警察等との情報交換を実施**

地元調達

- ◆ 地元業者の活用に関する地元の声については、受注業者に情報提供しました

馬毛島内の救急体制、避難体制

- ◆ **【救急体制】馬毛島の仮設宿舎に医務室を設置し、看護師1名を既に配置**
医師の定期巡回も、現在、医療機関と調整中
- ◆ **【避難体制】台風時、馬毛島の工事関係者は、原則、仮設宿舎に避難**

地元からの様々な声については、九州防衛局種子島連絡所を窓口とし、地域に与える影響を最小限にとどめるよう、引き続き、地元自治体と緊密に連携しながら速やかに対応してまいります